

ナキリスゲ (菜切り菅)

名前の意味^{いみ}：葉の縁がざらざらで、菜っぱが切れるという意味。

分類：単子葉類、カヤツリグサ科、スゲ属

(カヤツリグサ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：パピルス)

好きな場所：暗い林の下

分布：本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：1カ所から斜^{なな}めに立ち上がる^た茎^{くき}、茶色い粒々が集まった穂^ほ

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花卉の数：花卉はない

花の時期：9—11月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：イネ科植物とは、茎^{くき}の断面^{だんめん}が三角形であること、カヤツリグサの仲間とは、小穂^{だえんけい}が楕円形で大きいことで区別できる。

見つけやすさ ★★★★★

見分けやすさ ★★★★★★

総合難易度 ★★★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)